

第1回作業部会 意見の概要と対応方針

意見の概要		対 応
【資料等説明後の意見と対応】		
1	スクリーニング案は自然環境保全の視点のものが多く、騒音等、人の生活に係る評価については事前に資料収集ができておらず、これから収集ということによいか。環境省の環境基準の情報等は載せられなかったのか。	今後、環境基準等も含め、ゾーニング検討に有効と考えられる情報については、適宜反映していく予定である。
2	水深では検討しているようだが、沿岸からの距離を知りたい。深度で出すのではなく、沿岸からの距離を考慮すべきではないか。	離岸距離については、事業性、人の暮らしの観点から検討項目と考えており、作業部会でも今後意見を伺いながら検討を行う。
【動植物部会】		
1	風力発電は、資金と資材を調達できたら、石狩市のどこでも作ることができるのか。	大規模なものは、環境影響評価の手続きが必要であるが、法令等の規制がかからず、適正な許認可申請が行われれば可能である。
2	市で検討したゾーニング結果が事業に反映されることになるのか。	ゾーニング計画は、それ自体に石狩市が風力発電を規制や推進する効力は持たないが、風力発電の立地に対する地元意見として、対外的な意思表示にはつながるものとする。
3	ゾーニングのために、鳥類はどこまで調べるのか。	時間、コストの面から市域すべてを調査することは困難であるが、可能な限り調査しなかった範囲も類推して解析評価できる手法で現地調査を検討している。
4	ゾーニング検討内容の情報公開はどのように考えているか。	調査方法を含め、継続的な調査が実施できるよう、希少種、個人情報など秘匿情報を除いて、可能な限り公開する方針である。
5	現在、石狩市ではいくつかの事業があり、そこでの調査については情報提供を求め、出てきたものは評価してほしい。	石狩市では既に複数の事業計画が進められているため、これらのアセス図書の調査結果についても収集整理し、ゾーニングの検討資料とする。
6	市内の北部地域では、ゾーニング検討に関する既往文献がほとんど無いと思う。	情報、文献が少ないため、現地調査を実施し、鳥類の生息状況を把握し、ゾーニングの検討資料とする。
【事業性部会】		
1	スクリーニング案では、区画漁業権は示されているが、共同漁業権が示されていない。また、既存資料で主要な漁場や漁業実態が判るはずなので、主要な操業海域などをマップ上に示すべき。船舶の主要な海上交通ルートを示すべき。	共同漁業権設定海域については、現時点で事業性の評価ができていないため、図示していない。交通ルートについては、事業性のないエリアとして航路を加えてスクリーニングを行う。主な操業海域、共同漁業権、航路、送電施設については、次回部会で各設定状況を図示する。

2	陸上、洋上ともに漁業への影響はどうか。	関係機関へのヒアリングやゾーニングの先行事例などから、漁業、海生生物への影響の他、漁業との共生などの観点からもゾーニングを検討する。
3	ニシン漁業を考えると、風力発電はよいことがないと思う。風力発電とニシン不漁との因果関係をはっきりと示すデータはないが、漁業者は不漁に対する危機感が大きい。	
4	過去からの漁獲高の統計データを海域別に整理しておくことが、将来的にも重要ではないか。	統計資料の確認、漁業関係者へのヒアリングを行い、石狩湾の特性、漁業実態等の把握を行う。
5	データが無い場合、風車ができる以前の漁場や操業実態を含め漁業者に対するヒアリング調査を実施してはどうか。	
6	知人が健康を害しており、因果関係はわからないと言われているが、通院している。この場合、健康保険の費用が発生し、大きな健康被害が出た場合、保険で使われる金額（税金）も多くなるため、事業性の観点として健康被害は対象とならないのか。	健康被害については騒音などの観点から検討を行う。
7	事業性（事業者側）としては電力を供給するための情報、系統関係等の情報は必要である。	既存の送電施設について、次回部会で状況を図示する。
【景観・まちづくり・騒音等部会】		
1	ゾーニングを行うのはよいことだが、政府の電気買取価格や天候が非常に荒れる石狩湾など様々なリスクがあるので、風力事業で採算がとれるのかを考えるのが先ではないか。	個々の事業の採算性については、事業者による判断となるため、ゾーニングでは個々の事業についての採算性については検討対象としない。
2	本部会で騒音に係わる人数が少ないのであれば、北海道大学の松井先生にも加わって頂いたらどうか。	部会は、検討委員のほか各種団体等からの推薦や公募により、多様な主体に参加していただき、広範な意見収集を目的としている。 なお、騒音に関する有識者としては、既に環境審議会から選任している。
3	厚田風力発電は、1%程度地域に還元している。このように、事業者のまちづくり・景観づくりに還元してもらい活用するのはどうか。	事業の採算性とと同じく、事業者による判断となるため、ゾーニング要件として検討は難しい。
4	コストパフォーマンスの問題（採算性）がはっきりとし、また、騒音のことも、どのように進めるかを次回に示してもらわないと高度な協議にならない。事業性のマイナス面、20年後のことなどがはっきりとしてから、まちづくりなどの検討になるのではないか。	騒音に関しては、居住地から一定の距離を環境保全エリアとして設けるなどのゾーニングの先行事例や苦情の発生状況などを情報提供した上で、今後の作業部会でご意見を伺いたい。
5	小規模、大規模のさまざまな風力があるが、無秩序に行われると困るという考えがあるのか。小型風力でも音がして困っているという声がある。	ゾーニングでは再生可能エネルギーの導入拡大の観点から、基本的には大型風力を対象としているが、小型風力についても、風車の諸元は異なるものの、ゾーニングの検討結果を準用可能な部分

		もあるのではと考えている。
6	直線で9 kmほど離れた風力発電が見えるところに住んでいる。夜間灯の明かりが窓から入り、明るくて邪魔である。点滅するのでなおさら気持ち悪い。環境のいいところに人工物ができると邪魔である。	景観や騒音については、居住地から一定の距離を環境保全エリアとして設けることなど、今後の作業部会でご意見を伺いたい。
7	漁業協調の事例はほとんどが石狩湾での漁業に適さない。魚礁につく魚種は漁業対象としていない。石狩はニシンとサケなので、養殖生簀などへの活用もできないと思われる。岩手県洋野町の風力発電は広範囲なので漁業への影響もあるのではと思う。	関係機関へのヒアリングやゾーニングの先行事例などから、漁業・海生生物への影響を調査する他、漁業との共生などの観点からの検討を深める。
8	森林にとっては多くの風車ができると、風が弱まり中の森林の成長が良くなる。海岸に大型の風車が並ぶと風が弱まり、森林の成長には良い。オランダでは、このような研究報告がある。	ゾーニング検討に有効な情報については、海外の事例も含め収集を行う。
9	騒音について、どのような音が発生するのか実際に聞いていないので、住宅地における影響のイメージができない。色々な資料を確認した上で、観光などに対してはどうかといったことを議論してくのがよい。	騒音に関しては、居住地から一定の距離を環境保全エリアとして設けるなどのゾーニングの先行事例や苦情の発生状況などを情報提供した上で、今後の作業部会でご意見を伺いたい。
10	資料のデータが広すぎるので、もっと細かい情報がほしい。石狩市の騒音条例などでは、この地域では何 dB 以下であるなど、全部を含めてどのようになるかを示してほしい。	景観や騒音については、居住地から一定の距離を環境保全エリアとして設けるなど、具体案を提示し、また、市街地などについては範囲を拡大したマップを示して、今後の作業部会でご意見を伺いたい。